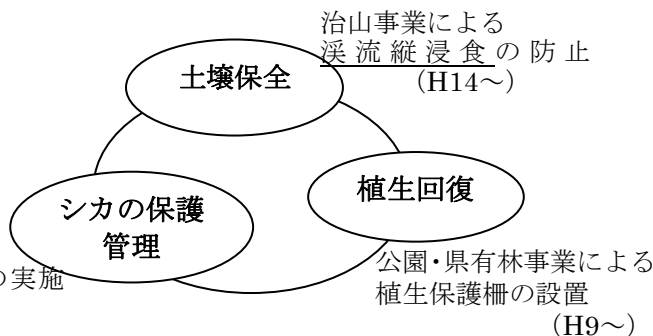


丹沢大山保全緊急対策事業について

1 これまでの経緯

(1) 保全再生重点区域化

- 丹沢大山保全対策では、中津川エリアを保全再生重点区域に位置づけ。
- 特別保護地区を中心に 3 つの具体的な対策を重点的に実施。



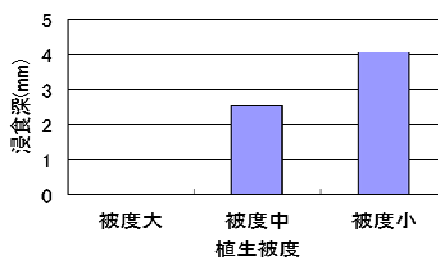
<保全再生重点区域における取組の方向>
 特別保護地区内の植生回復及び多彩な森林づくりによる生態系保全環境収容力の増進とシカの保護管理の一体的推進による生物多様性の保全。

(2) 自然林内の表面浸食の深刻化

丹沢大山総合調査の初年度調査では、堂平の林床植生の衰退した斜面で、4ヶ月間に深さ4ミリの土壌浸食が確認された。



- 林床植生が衰退した箇所は、急激な土壌浸食が発生。
- 既往事業とバランスの良い土壌浸食対策が急務。



植生被度の違いによる 7/5 から 11/21 (総降雨量 2344mm) における浸食深

(3) これまでの土壌浸食対策

- これまで自然林内急斜面地では、一部の例を除いて対策は実施されていない。
- 尾根沿いの緩斜面で効果のあった植生保護柵を急斜面地にまで増設するには限界がある。

現行植生保護柵の増設の限界

- ・ 構造上の問題 (急傾斜地で困難)
- ・ 維持管理の問題 (大規模は破損リスク大)
- ・ 占有面積拡大による問題 (生息地分断)
- ・ 植生回復効果の即効性に対する問題

2 本事業での検討課題

(1) 環境負荷の小さい土壌保全新手法開発

- 植生回復、リター堆積維持、部分的斜面勾配の緩和などの手法により尾根部より下方の急斜面地でも土壌浸食を防止する天然材料使用等の環境負荷の小さな新手法を検討する。
- H17-18の2カ年にわたって、小規模な現地試験を行い、新手法を評価・検討する。

(2) 土壌保全対策を組み込んだ流域の総合保全構想の提案

- 塩水川流域をモデルとして、これまでのシカ保護管理、植生回復、土壌保全 (溪流縦浸食) 対策に新たな手法による土壌保全対策を加えて平成19年度から一体として実施するために、当面の流域の再生・修復目標、対策事業全体の実施方針の再整理 (場所による優先度、対策相互の関係、緊急・短期・長期対策の考え方等) で構成する実施構想を提案する。
- 本構想は、丹沢大山総合調査の政策検討WGと水と土再生調査チームの連携により検討し、総合調査の政策提言 (新保全計画) に反映させる。

(3) 流域総合保全構想策定ガイドラインの検討

- 塩水川流域での流域総合保全構想の検討プロセスを他流域に応用するために、流域の現状把握や目標設定と事業実施方針等を決定するに当たっての、把握・検討すべき事項や検討手順、検討方法・基準等を整理し、ガイドライン (手順書) としてまとめる。

これまでの経過					
総合調査の動き	2004. 4 調査開始	2004. 8 セミナー発表	2004. 10 実行委員会にて要望		
県の動き			2004. 10~ 予算要求	2004. 11~ 詳細検討	2005. 4 事業方針決定